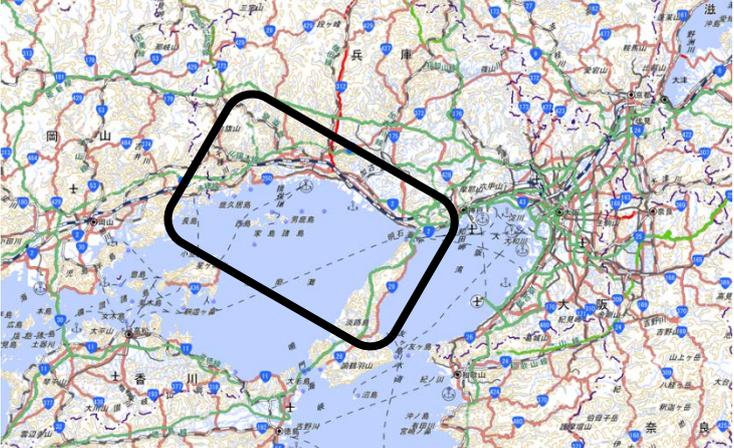


【4-2】

湾・灘の区分	播磨灘、大阪湾
取組の名称	海底耕耘
事業期間及び事業費	事業期間:2009年度(平成21年度)～継続中 事業費(H30):155,584千円(うち県費21,459千円)
事業体制	<p>【海底耕耘の実施】</p> <p>兵庫県内の漁業者(漁協)等が構成する団体</p> <p>【モニタリング調査】</p> <p>調査会社(活動組織がモニタリングを委託)</p> <p>【必要に応じ、活動組織に助言】</p> <p>兵庫県水産部局(水産技術センター等)及び兵庫県豊かな海創生支援協議会(県・市町・県漁連等で構成)</p>
事業の背景・目的	海底砂泥が固まると、底生生物が生息しにくい環境となり、また円滑な物質循環を妨げるため、海底を専用の桁で耕すことにより底質環境を改善する。
事業場所の詳細	<p>神戸市、明石市、播磨町、加古川市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、淡路市、洲本市及び南あわじ市地先の海域</p>  <p>出典:国土地理院HP(http://maps.gsi.go.jp/)より作成</p>
事業内容	<p>概ね漁協ごとに組織された団体が、国等の事業を活用し海底耕耘に取り組んでいる。浅場を中心に、漁船で専用の桁をえい航し海底を耕す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>海底耕耘に用いる桁</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>海底耕耘実施状況</p> </div> </div>

<p>モニタリング方法(効果・影響の確認方法)</p>	<p>[調査項目] 底生生物の種類数や個体数等</p> <p>[調査時期・頻度] 年に1～2回程度</p> <p>[調査場所] 兵庫県に面する大阪湾、播磨灘(神戸市ほか10市町・30活動組織)で各活動組織が活動区域内に設定する定点</p> <p>[調査地点数] 1活動区域あたり10～20地点程度</p> <p>[モニタリング方法] 主に採泥器を用いて底質試料を採取、分析し、底生生物の種別の個体数等を計数及び測定</p>
<p>取組による効果・影響及びその判断基準等</p>	<p>・固く平坦であった海底が、柔らかくなり砂紋が確認された。</p> <p>・環境指標生物のナメクジウオが確認され、またそれまで見られなかったイカナゴが確認された。</p>  <p>左:耕耘前、中央:耕耘後の砂紋、右:耕耘後の底生生物(ナメクジウオ等)</p>
<p>モニタリングの留意点等</p>	
<p>モニタリング結果の活用方法</p>	<p>前年度の調査結果(底生生物量等)と今年度の結果とを比較し、次年度の調査内容に反映</p>
<p>関係機関等における連携・情報共有の方法</p>	<p>活動組織が協議会へモニタリング成果報告書を提出</p>
<p>現状での課題</p>	<p>より簡便かつ効果を把握できるモニタリング手法の検討</p>
<p>今後の予定等</p>	<p>国等の事業(水産多面的機能発揮対策事業)を活用し、継続して実施する予定。豊かな海の早期再生のためには、継続的な事業実施が必要である。</p>
<p>取組事例についての発表資料等</p>	
<p>情報提供元</p>	<p>兵庫県 農政環境部 農林水産局 水産課</p>